

ピーマンのカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入し、なるべく深く耕耘します (定植までに20日以上の間隔をおく)	ラクトバチルス 600g …通気・保水・保肥性がよく、深層まで肥沃な土に。 堆厩肥 2～4トン (なるべく多く) ※前作の茎葉もなるべくスキ込み。 硫安 80kg (N成分:1.6kg) [半促成 100kg、促成 120kg] ※微生物によって地力化し、定植時には 土壌EC:0.2以下 と抑えられます。 ※カリ成分12kg程度は吸収しますが、むしろ堆厩肥によるカリ過剰に注意。 ※チッソ多肥になるので 土壌の酸性化に注意。 もし土壌pHが極端に酸性(pH:5.5以下)なら、地力作りにも 畑のカルシウム60kg(以上)を投入します(栽培中は40kg程度)。 なお下記、整地時にも施します。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に散布 (全面散布、及びウネ上への散布)	畑のカルシウム 80kg [半促成 100kg、促成 120kg] ※ハウス等で、土壌が特に高pH・高ECの場合のみ、カルテックCa粒状を。 ※カルシウム量はチッソ量と同等以上に、 多めの施用 をお勧めします。 ※もし特に心配な畑で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補ってください。(同時施用可能)
育苗	床土(培土)	培土に 畑のカルシウム3% ほど混和。または1鉢当り20グラムを置き肥すると、ガッシリ充実した苗ができます。[地床の場合は本畑同様に]
	散水時に散布(葉面散布・灌水)	濃縮酵素液 (500倍) …根を強く動かし、生長を促進 カルテックCa液状 (500倍) …茎葉を厚く充実させ、健全な体質を作る ※播種後、接木まで 毎日～3日間隔、1000倍の 交互 散布で茎が太くなる。 ※接木4日後から 最初だけ1000倍、以後500倍で7日間隔・交互に、葉上からタツプリ散布。(ただし状態により適宜選択)。 ※移植(仮植)時には 濃縮酵素液を灌水して根を伸ばす。 ※ 定植5日前 に、苗の引締め・仕上げに、 Ca液状 を散布。 (7～11節の第1分枝の基部に着く最初の花の開花前に定植。老化させないこと)
定植時	苗のドブ漬け・植付け後 灌水	濃縮酵素液 500倍液 …活着・初期の根張り促進 ※定植直後の根の伸びがピーマンの順調な生育を決定します。《必須》
定植後2～30日 (収穫開始の前)	(根と体質作り) 初期の灌水と葉面散布	① 濃縮酵素液 1リットル灌水(200倍以上、適宜) または 葉面散布 ※定植後15日前後に タツプリ深く灌水 し、四方に深く根を伸ばします。 ② カルテックCa液状 葉面散布 または 1リットル 灌水(200倍以上、適宜) ※①の5日ほど後に カルシウムを与える。 ※ 土壌EC:0.2程度 で根をしっかりと伸ばす。初期に決して多肥にしないこと。
収穫中の灌水 《推奨》	灌水施用 半月ごとと繰返し	① 濃縮酵素液 1リットル 灌水(または葉面散布) …根の強化 ※とくに収穫量が多い時には 酵素液で草勢を維持し、波をつくらないように。枝根が多く 土の粒子を抱え込むような根を維持することが重要です。 ② アミノ酸液 (または自家製アミノ酸液肥) 10リットル 灌水 …栄養補給 ③ カルテックCa液状 1リットル 灌水(または葉面散布) …引締め・生殖生長
追肥	収穫開始1ヵ月後から、上記の灌水では不足する場合のみ、追肥します。 1～2ヵ月ごとに。	硫安 20kg 状態によって調節。 畑のカルシウム 20kg 硫安と同時に施用して 栄養バランス維持。疫病対策も ※とくに過繁茂や、花が悪い時、果形がイビツな時、尻腐れ果が出る時にはすぐにカルシウムを効かせて バランスを回復してください。 ※栽培中に 土壌pH:6.2前後を保つこと。酸性になった時は、カルシウム。土壌ECは通常時0.2で根が伸び、施肥後3日ほど0.4までが適当です。EC:0.5以上になると根の動きが著しく衰弱します。
葉面散布	(草勢調節) 葉面散布 (7日ごと交互)	カルテックCa液状 500倍 …花と果実を強くする。灰色カビ・斑点細菌病も減る。 濃縮酵素液 500倍 …根・導管の強化、草勢維持、肥大促進、茎葉生長。 ※灌水施用(及び追肥)より速効的な微調整。農薬には酵素混用を。

上表は **露地栽培**(2～3月播種 6～10月穫り/トンネル早熟も) および **ハウス抑制**(4～6月播種 7～11月穫り)を基準として
います。 **ハウス半促成**(10～11月播種 2～6月穫り)、 **ハウス加温・促成**(暖地 8月播種 11～6月穫り)では 上記[カッコ
内]のように 施肥量を増加・調節し、その他の多用な作型の場合も これらに準じて下さい。

トウガラシ類(ナス科トウガラシ属)のうち 中果品種である「ピーマン」以外の「カラーピーマン」(大果)、「シシトウ」(小
果)、「トウガラシ」(小果・辛味)は各施肥例を、また最近の多彩なピーマン類品種は どれか近い施肥例を参照して

下さい。